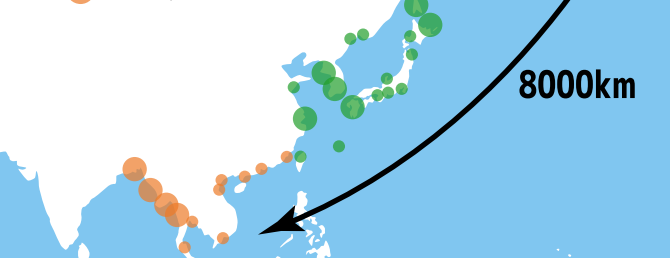


# ヘラシギの生息地

- 繁殖地
- 中継地
- 越冬地



## 繁殖地

チュートコ半島、カムチャッカ北部。  
海岸線から 5km 以内のツンドラ地帯～瀉湖、淡水湖、河川などの周辺部の砂州、氷堆丘、ツンドラ、乾燥ツンドラに好んで営巣します。

## 渡り経路(フライウェイ)

カムチャッカ半島、サハリン、日本、韓国、中国を経由して、8000km を移動します。

## 越冬地

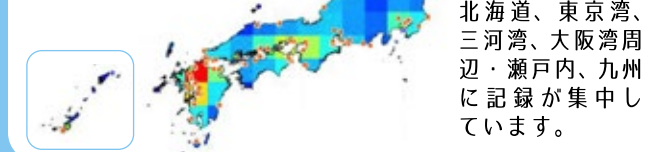
ミャンマー、バングラデシュ、中国、タイ、ベトナム、インド、マレーシアで冬を過ごします。

## 生息環境

越冬地及び中継地においては、主に潮間帯を利用しますが、干拓地や後背地を利用することもあります。

## 日本におけるヘラシギの記録

過去 150 年間で、全国各地においてヘラシギが記録されています。



北海道、東京湾、三河湾、大阪湾周辺・瀬戸内、九州に記録が集中しています。

# 国際的な保護プログラム

ヘラシギ保護の活動は、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ (EAAF) のヘラシギ特別委員会の調整で実施されています。特別委員会は、日本をはじめとするヘラシギの渡り経路にある全ての国の代表者のほか、イギリス、ドイツ、スカンジナビアの自然団体で構成されています。

- チュートコ半島の未確認の繁殖地、カムチャッカとサハリンの中継地の調査
- 重要繁殖地(メイノピルギノ)におけるモニタリング活動：繁殖生物学的研究、カラーマーキング、個体数変動、天敵による捕食圧を調査
- 人工孵化(於：英国)及びヘッドスターティング(繁殖地域での飼育)：卵の生存率を引き上げること、そして自然界への再導入の可能性を試すことがねらい
- 保護区域設置：ヘラシギの繁殖地と中継地に、ロシア政府による新たな保護区域の設置
- 脅威への対策：中継地での密猟・違法な剥製収集、生息地の改変などに対する対策(政府や市町村の協力が不可欠)
- 教育・普及啓発：フライウェイを含む全ての生息地における政府・その他利害関係者との対話に向けた努力
- 越冬地におけるシギ・チドリ類と底生生物調査及び地域の人たちの啓発活動
- 捕獲圧力の軽減：狩猟に代わる生業の供給によりミャンマー及びバングラデシュでは密猟の割合の低下

**ヘラシギの保護活動を行う世界各国の団体**

渡り経路の全ての場所において、私たち人間が協力し合うことができれば、ヘラシギを絶滅から救うことができます。

そして同時に、東アジアを往来する何百万もの渡り鳥たちにとって重要な生息地である生態系を保全することにもなるのです。

お問い合わせ先 [inq.steps@gmail.com](mailto:inq.steps@gmail.com)

- NPO法人ラムサール・ネットワーク日本共同代表 柏木 実
- EAAF ヘラシギ・タスクフォース日本代表
- NPO法人バードリサーチ 守屋 年史
- EAAF シギ・チドリ類国内コーディネーター

このリーフレットは経国連自然保護基金の助成金による支援によって作成しました。このリーフレットの一部、または全てを著作権の範囲を超える形で断り無く複写・掲載・転載することを禁じます。



# ヘラシギを絶滅から救おう



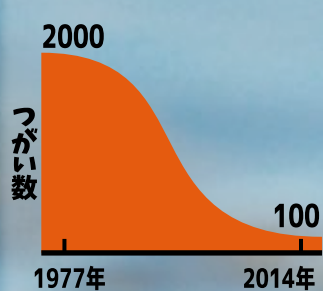
Photos: WWT, E.Lappo, B.Scampion, R.Robinson, N.Yakushev, osullivan

# 世界的な絶滅危惧種

ヘラシギは、ヘラ状のユニークな嘴をもつ小型のシギチドリ類です。この嘴の役割は、科学者の間でもまだ十分に明らかにされていません。

現在、ヘラシギを含む東アジアの渡り性水鳥 155 種のうち、24 種が絶滅の危機に瀕しています。特に長距離の渡りをする種で状況が深刻化しており、ヘラシギも例外ではありません。

## 過去30年で総個体数が90%減少・・・



ヘラシギの繁殖地であるロシア・チュトコ半島では、わずか 100 つがいほどしか確認されておらず、2009 年以降 IUCN のレッドリストで絶滅危惧 IA 類(CR)に指定されています。ヘラシギは今、世界的に最も絶滅の危機にある鳥の 1 種なのです。

## 絶滅の要因

### ① 生息地の喪失

重要な中継地・越冬地の多くにおいて大規模干拓と沿岸開発が行われており、ほとんどはヘラシギが生息する潮間帯の干潟です。

### ② 繁殖地の環境変化

地球温暖化により、繁殖地である北極圏の環境が変化しています。

### ③ 公害による干潟の汚染

### ④ 中継地・越冬地における密猟

越冬地であるミャンマー、バングラデシュ、中国では水鳥の狩猟が行われ、ヘラシギもその犠牲になっています。

### ⑤ 低い繁殖成功率

チュトコ半島において、1 シーズンに 1 つがいから育つ雛の数は平均 1 羽以下です。

## ヘラシギ

**Spoon-billed sandpiper**  
*Eurynorhynchus pygmeus*  
チドリ目 シギ科

成鳥は体長およそ 15cm、翼開長およそ 32cm、体重 40g 以下の小さなシギ。

特徴的なヘラ状の嘴をもち、干潟や砂浜、埋立地の水溜まりなどで甲殻類や昆虫類の幼虫などを食べます。



photo by Baz Scampton

今すぐ緊急措置をとらなければ、今後10～15年でヘラシギは確実に絶滅します